

年報 2006

市立八幡浜総合病院



目次

巻頭言	3
内科	4
・糖尿病内科	5
・循環器内科	9
・呼吸器内科	10
・消化器内科	11
小児科	13
外科	14
整形外科	16
脳神経外科	17
皮膚科	18
泌尿器科	19
産婦人科	21
眼科	22
耳鼻咽喉科	23
放射線科	24
リハビリテーション科	26
歯科口腔外科	27
臨床病理科	29
薬局	31
栄養療法科	32
看護科	35
医療情報管理室	37
医事係	40
病院の行事等	42

巻 頭 言

市立八幡浜総合病院の年報発刊に当たって

このたび市立八幡浜総合病院の年報第一号を発刊することになった。当院の長い歴史からすると「なぜ今頃」と思われるかも知れないが、これは現実であり、そのまま受け止めるしかない。これを病院の発展に如何に結びつけていくか、今後の姿勢が大切である。

年報は年毎の病院の活動実績のまとめであり、記録である。さらに次の活動目標設定にも関係してくる。また、内外に公開され、自己評価および第三者評価の対象ともなる。

さらに、この積み重ねは病院の歴史資料としても貴重なものである。年報は病院活動の記録であると共に、病院活動自体にもいろいろな面から大きな影響を及ぼす。医療は多くの職種の連携で成り立つ仕事ながら、一方ではそれぞれの職種内でさえ専門分化する傾向のなかで、ともすれば自分の領域の活動だけに關心を持つ方向に傾きがちになる。そのような状況の中では病院全体の活動状況を把握し、当地域において当院の果たしている役割と存在意義を再認識する資料としても意味がある。

医療環境は極めて厳しい状況にあって、国としての病院像や医療体制に対する将来の展望が混沌としている状態で、医療の現状が医療危機として大きな社会問題としてクローズアップされているこの時期での第一号の発刊となった。

この年報の内容には現在の医療環境が大きく影響していることは明らかである。従って、その評価にはそれぞれの観点から大きな幅があると推測している。年々、内容が充実、向上していくよう職員が努力していくことを願って巻頭言としたい。(院長 藤田 繁)

内科

内科は、当院での専門性のある内科診療と 24 時間の内科救急に対応して診療に当たっています。専門外来としては故吉田院長が作り上げた糖尿病外来に始まり、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科としての専門診療を行っています。これらの専門内科については、それぞれの診療内容・実績を別に記載しています。

<専門内科：別記載>

糖尿病内科

循環器内科

呼吸器内科

消化器内科（平成 18 年末に専門医は不在となり、一般内科として消化器疾患に対応）

<平成 18 年度の内科全体の実績>

平均入院患者数：124.9 人

平均外来患者数：174.8 人

内科全体の医師は平成 18 年 4 月には藤田院長を含めて 12 名でしたが、平成 18 年末には 10 名になっています。特に消化器内科診療では専門医が不在となり、当院外科および消化器内科専門医のいる近隣の病院に協力を得て診療に当たっています。上述の専門内科以外の様々な疾患も、地域中核病院の内科として受け入れています。地域住民の高齢化に伴い、複数の合併症を持った患者様も多くなり対応に苦慮することも多いですが、内科医あるいは他科の医師と力を合わせ診療に当たっています。脳外科医の減少に伴い、脳梗塞患者の診療も内科主体となり内科の負担が増加して来ていますが、脳外科医とも協力しながら対応しています。

救急対応として、当院は 365 日救急を受け入れていますので、時間内も時間外も内科当番を決めて内科急患に対応しています。地域のかかりつけ医的な役割を果たしてきている部分もありますが、今後は今以上に地域の開業医との病診連携を強化して、中核病院としての専門医療、救急医療を維持したいと考えています。

糖尿病内科

1. 紹介

1) 概要

当院では、昭和 39 年に当時の吉田良一院長が全国に先駆けて糖尿病教室を開設して以来、40 年という歴史のある糖尿病診療を行っている。眼科・泌尿器科(透析)・循環器内科(PCI)・脳神経外科などと連携し、当院のみで糖尿病に関する合併症も含めた診療が完結できている。

糖尿病教育に関しては、糖尿病療養指導士を中心として管理栄養士・看護師・薬剤師・検査技師・理学療法士が協力してチーム医療を行っている。当院の療養指導は、指導の場を入院よりも外来に比重を置き、集団から個別指導に重点を置いていることが特徴である。

2) 診療実績

平成 18 年に糖尿病外来でフォロー中の患者 994 名中、合併症など各種検査が行われた 694 例の成績

年齢 68.4±11.5 歳

経過年数 12.0±8.6 年

性別 男：女=354：340

病型 1 型：2 型：その他=3.8%：93.8%：2.4%

血糖コントロール状態 優：良：可：不可=10.0%：31.0%：44.1%：14.9%

HbA1c 7.5±8.7%

BMI 23.7±3.9kg/m²

網膜症 NDR：SDR：PDR=59.6%：18.4%：22.0%

腎症 1：2：3 以上=58.0%：34.1%：7.9%

治療内容 食事療法のみ：OHA：IN=23.5%：46.6%：29.9%

3) 診療内容（平成 18 年）

①糖尿病外来：週 2 日（患者数約 1000 人）

②糖尿病教育・コントロール入院：月 10～20 人

③糖尿病教育指導

外来教育：初期教育コース 月 1 回 4 回コース

特別コース 3 ヶ月に 1 回

教育入院：1 週コース、2 週コース（通常コース）

④糖尿病患者会（みどり会）

⑤地域活動

糖尿病週間行事（11 月：メタボリック症候群の健康相談）

八幡浜大洲糖尿病チーム医療研修会（年 3 回）

⑥糖尿病カンファレンス：毎週水曜日 17:30～

4) スタッフ

①指導医

酒井武則（糖尿病学会指導医・専門医、内分泌学会特例指導医、愛媛大
学医学部教育協力者、日本病態栄養学会評議員・NST コーディネーター、
認定内科専門医、愛媛糖尿病協会理事）

②愛媛糖尿病療養指導士：4人

谷本千鶴子、此上保美、駿河陽子、藤原秀子

2. 学会発表

全国学会

第 49 回日本糖尿病学会年次学術集会（2006. 5. 25-27 東京）

Macroangiopathy 優位な糖尿病の臨床的検討

酒井武則、大野芳敬、宮田朋史、他

地方会

日本糖尿病学会中国四国地方会第 44 回総会（2006. 11. 17-18 岡山市）

多施設共同による糖尿病患者データ経時的変化の検討

山脇 孝、酒井武則、他

糖尿病における血清アミロイド A 蛋白（SAA）測定の臨床的意義

大野芳敬、酒井武則、宮田朋史、他

33G インスリン用注射針の使用感についての検討

宮本和典、酒井武則、宮田朋史、大野芳敬、此上保美、谷本千鶴子

Hospital Base における糖尿病外来患者の白内障についての検討

大野敬三、酒井武則、他

一過性の腓骨神経麻痺をきたした SPIDDM の 1 例

酒井武則、宮田朋史、大野芳敬、他

地域における糖尿病療養指導士の現状

谷本千鶴子、此上保美、駿河陽子、松本真知子、宮本和典、酒井武則、他
栄養士主体の栄養指導の試み

井上貴美子、薬師神江利、井上昌子、酒井武則、宮田朋史、大野芳敬

研究会

第 22 回愛媛内分泌代謝疾患懇話会（2006. 7. 13 松山市）

アマリールからグルファストへの切り替え例の検討

酒井武則、宮田朋史、大野芳敬

第 2 回愛媛 SAA 研究会（2006. 1. 28 松山市）

糖尿病症例における SAA 測定の意義

酒井武則、大野芳敬、宮田朋史、此上武典

第 4 回八幡浜大洲糖尿病チーム医療研修会 (2006. 2. 23 大洲市)

当院の活動報告

谷本千鶴子

NST の現状

宮本和典

第 5 回八幡浜大洲糖尿病チーム医療研修会 (2006. 6. 16 八幡浜市)

パネルディスカッション：糖尿病療養指導の役割分担-ECDE に期待すること-

谷本千鶴子、宮本和典

第 6 回八幡浜大洲糖尿病チーム医療研修会 (2006. 10. 26 八幡浜市)

インスリン指導例

宮本和典

3. 論文

酒井武則、大野芳敬、宮田朋史、南 尚佳、松浦文三、恩地森一：2 型糖尿病における速効性インスリン分泌促進薬と持効型溶解インスリンアナログ併用療法の有用性の検討.

Diabetes Frontier 2006 ; 17 : 98-101

4. 座長

第 25 回八幡浜・大洲・消化器・糖尿病・内分泌研究会 (2006. 9. 20 八幡浜市)

教育講演 司会：酒井武則

第 22 回愛媛内分泌代謝疾患懇話会 (2006. 7. 13 松山市)

一般演題 座長：酒井武則

第 5 回八幡浜大洲糖尿病チーム医療研修会 (2006. 6. 16 八幡浜市)

パネルディスカッション 司会：酒井武則

第 6 回八幡浜大洲糖尿病チーム医療研修会 (2006. 10. 26 八幡浜市)

レクチャー 司会：井上貴美子、薬師神江利

症例検討 司会：駿河陽子

5. 講演

第 22 回中国四国新臨床糖尿病セミナー (2006. 10. 15 松山市)

シンポジウム 1：メタボリックシンドロームの管理「治療について」

酒井武則

シンポジウム 2：糖尿病療養士の最前線「地域における CDE の取り組み」

此上保美

糖尿病治療フォーラム (2006. 9. 21 松山市)

「速効型インスリン分泌促進剤と遅効型溶解インスリン製剤の併用療法」

酒井武則

第 33 回愛媛糖尿病チーム医療研修会 (2006. 7. 8 松山市)

レクチャー 2 : 糖尿病の診断と病態 ; 症例を中心に「高齢者の糖尿病」

酒井武則

愛媛県薬剤師会宇和島支部研修会 (2006. 6. 27 宇和島市)

「糖尿病と糖尿病性腎症について」

酒井武則

平成 18 年度愛媛県栄養士会八幡浜支部総会 (2006. 4. 18 八幡浜市)

「糖尿病 最近の動向と治療・高齢者の低栄養について」

酒井武則

第 25 回八幡浜・大洲・消化器・糖尿病・内分泌研究会 (2006. 9. 20 八幡浜市)

教育講演「頸部エコーの実際」

山村展史

第 6 回八幡浜大洲糖尿病チーム医療研修会 (2006. 10. 26 八幡浜市)

レクチャー「摂食・嚥下障害とその対応について」

大下真紀

循環器内科

循環器内科は、急性心筋梗塞を含めた急性冠症候群に対する緊急の血管内治療や、不整脈に対する緊急ペーシングなどに24時間体制で対応しています。心臓だけでなく、末梢動脈に対するインターベンションも徐々に増加しています。また応援医の協力を得て、カテーテルアブレーションも行うようになってきました。

地域の開業医との連携を強めるために年に3回、循環器懇話会を開いており、18年度で第56回を迎えることが出来ました。出席してもらっています開業医の先生方に感謝するとともに、さらに多くの医師に参加して頂けるように努力しています。

<専門的診断術>

心エコー

動脈・静脈エコー検査（血流検査）

トレッドミル負荷試験

心筋シンチ

心臓MRI

心臓カテーテル検査

心臓電気生理検査

<平成18年度の実績>

心臓カテーテル検査：212件

その中で経皮的冠動脈形成術（PCI）は84例

ペースメーカ治療

恒久式ペースメーカ植え込み：18例

一時的ペーシング：6例

電池消耗によるジェネレータ交換：6例

末梢動脈・静脈に対するカテーテル治療：58例

不整脈に対するカテーテルアブレーション：6例

<平成18年度学会発表>

発症6ヶ月後に開始した薬物療法により”blue toe”が改善したコレステロール結晶塞栓症の1例

高橋光司、岩田猛、上村重喜、溝渕剛士

第88回循環器学会中国・四国地方会、平成18年6月（岡山）

ペーシング治療をせずに20年超経過している完全房室ブロックの1例

高橋光司、岩田猛、上村重喜、溝渕剛士

第88回循環器学会中国・四国地方会、平成18年6月（岡山）

呼吸器内科

診療担当 平山 猛 (日本呼吸器学会専門医)

診療方針と治療

当院呼吸器内科の基本方針は、必要最小限の検査手段を選択し、十分なインフォームド・コンセントのもとに、患者様およびご家族の意向を尊重した治療を行います。

対象疾患

気管支喘息、肺気腫、気管支拡張症、間質性肺炎、肺結核、非結核性抗酸菌症、肺炎、気胸、肺癌、縦隔腫瘍、サルコイドーシス、睡眠時無呼吸症候群など呼吸器疾患全般の診療にあたります。在宅酸素療法、在宅人工呼吸器の導入、呼吸リハビリのための入院も受け付けています。

診療状況

- 1) 気管支喘息は、治療ガイドライン（吸入ステロイド導入）に基づいた治療を行っています。その結果、発作による救急外来患者数は減少しています。
- 2) 慢性呼吸不全に対する在宅酸素療法は、現在進行中の患者様は約 100 名です。適応疾患としてはCOPDが最も多く、次いで肺結核後遺症、間質性肺炎、最近では肺癌症例も増えてきています。また鼻マスク陽圧呼吸の導入も徐々に増加しています。当院では、在宅酸素療法患者様を対象に、平成 14 年度より毎年バス遠足を行っており、患者様ご家族から大変好評を得ています。
- 3) 肺癌症例は、CT 検診の普及により近年増加傾向で早期肺癌症例も増えてきていますが、依然として根治の難しい疾患です。当院においても肺癌の診断・治療方針が可能ですが、治療は、胸部外科医および放射線治療設備を有する松山地区の病院（四国がんセンター、県立中央病院、国立病院機構愛媛病院、松山赤十字病院など）を紹介しています。また、外来通院での化学療法（抗癌剤治療）も行っています。
- 4) 睡眠時無呼吸症候群の診断と治療(CPAP)も可能です。

当院で対応不可能な検査、治療（対応機関への紹介可能です。）

- ①肺結核の入院治療、②放射線治療、③縦隔鏡検査、④蛍光気管支鏡、レーザー治療、⑤PET

消化器内科

1. 紹介

平成 10 年から 5 名の消化器内科医師による内視鏡検査および治療を含めた消化器内科としての専門診療を行ってきたが、平成 16 年より医師の減少により平成 18 年末をもって、閉鎖に至っている。現在一般消化器内科としての診療を維持し、消化器内科の再開を目指している。

H18 年診療業績

上部消化管内視鏡検査：1559 件

EMR：4 件、ESD：3 件、食道拡張術：5 件、PEG：24 件、EVL：7 件

ERCP：68 件

治療（EST・EPD・載石・ドレナージ・ステント挿入）：53 件

下部消化管内視鏡検査：463 件

治療（polypectomy、EMR）：109 件

腹部エコー検査：1269 件

PTCD：15 件

学会教育認定施設

日本消化器病学会認定関連施設

日本消化器内視鏡学会認定施設（休止中）

スタッフ

担当医師

酒井武則：日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医

門医

芝田宗生

認定内視鏡技師：2 名

カンファレンス

内視鏡カンファレンス（週 1 回）

消化器カンファレンス（週 1 回、休止中）

2. 発表

学会

無

研究会

第 24 回八幡浜・大洲・消化器・糖尿病・内分泌研究会 (2006. 3. 3 八幡浜市)

症例検討 (進展範囲・深達度の診断に苦慮した MK の 1 例)

大野芳敬、宮田朋史、酒井武則

第 25 回八幡浜・大洲・消化器・糖尿病・内分泌研究会 (2006. 9. 20 八幡浜市)

当院における大腸 EPMR の現状

宮田朋史、大野芳敬、芝田宗生、酒井武則

内視鏡治療研究会 (2006. 11. 10 八幡浜市)

診断に苦慮した膵癌の 1 例

大野芳敬、宮田朋史、芝田宗生、酒井武則

3. 論文

無

4. 座長

第 24 回八幡浜・大洲・消化器・糖尿病・内分泌研究会 (2006. 3. 3 八幡浜市)

症例検討 司会：酒井武則

内視鏡治療研究会 (2006. 11. 10 八幡浜市)

一般演題 座長：酒井武則

5. 講演

無

小児科

	月	火	水	木	金
午 前	廣 井	米 澤	廣 井	米 澤	廣 井
午 後	米 澤	慢性疾患 BCG	乳児健診 予防接種	米 澤	廣 井

* 毎月第一木曜日午前は小児神経外来(福田医師による)も併設

* 毎月第四金曜日午後は小児循環器外来(檜垣医師による)も併設

スタッフ紹介

【常勤】

廣井 一浩 (ひろい かずひろ) : 医長

平成5年 愛媛大学医学部卒業

資 格 日本小児科学会専門医

所属学会 日本小児科学会、日本血液学会、日本小児血液学会、日本小児がん学会
日本小児アレルギー学会、日本小児科医会

米澤 早知子 (よねざわ さちこ) : 医長

平成11年 愛媛大学医学部卒業

資 格 日本小児科学会専門医

所属学会 日本小児科学会、日本血液学会、日本小児血液学会

【非常勤】

福田 光成 (ふくだ みつまさ) : 愛媛大学医学部小児科 助教

平成3年 愛媛大学医学部卒業

資 格 日本小児科学会専門医、日本小児神経学会専門医

日本てんかん学会認定医・臨床専門医

檜垣 高史 (ひがき たかし) : 愛媛大学医学部小児科 講師

昭和63年 愛媛大学医学部卒業

資 格 日本小児科学会専門医、日本小児循環器学会評議員

日本周産期・新生児学会指導医

外科

医師紹介

國吉 巖 : 副院長 昭和 45 年 山口大学医学部卒業
昭和 53 年 当院赴任
所属学会 : 日本外科学会、日本消化器外科学会、
日本臨床外科学会、日本大腸肛門病学会

鈴木 伸明 : 医長 平成 7 年 愛媛大学医学部卒業
平成 14 年 当院赴任
所属学会 : 日本外科学会認定医、日本消化器外科学会、
日本臨床外科学会

的場 勝弘 : 医長 平成 8 年 山口大学医学部卒業
平成 19 年 当院赴任
所属学会 : 日本消化器外科学会専門医、日本外科学会専門医、
日本臨床外科学会、日本癌治療学会

新藤芳太郎 : 医員 平成 16 年 山口大学医学部卒業
平成 18 年 当院赴任
所属学会 : 日本外科学会、日本消化器外科学会、日本臨床外科学会、日本肝
胆膵外科学会、日本癌治療学会

科の特徴

当院外科は一般外科（乳腺、甲状腺等）と消化器外科を専門としており、山口大学第二外科（現：消化器腫瘍外科）から 40 年以上途切れることなく医局員が派遣されています。また過疎化による人口減少や地理的環境等により松山志向の患者様も多く、徐々に症例数が減少しているのは事実ですが、平成 18 年の手術症例は 404 例（うち全身麻酔 176 例）でした。またこの地区唯一の 2 次救急病院であり、平成 18 年の時間外緊急手術は 15 例でした（時間内緊急を含めると倍増）。近年の医師の都市集中により消化器内科医も減少していますが、最近外科でも胃カメラ、大腸カメラにも積極的に取り組んでいます。風邪による腹痛から虫垂炎等手術の鑑別、さらには癌の手術に至るまでしっかり治療していますので安心して受診下さい。

平成 18 年の主な手術

胃癌：	22 例	乳癌：	4 例
結腸癌：	24 例	胆石胆嚢炎：	33 例
直腸癌：	12 例	総胆管結石：	10 例
下部胆管癌：	1 例	虫垂炎：	24 例
ヘルニア：	62 例	腸閉塞の手術：	11 例

その他の全身麻酔：約 60 例

その他に肛門外来にも力を入れており、平成 18 年の手術症例 404 例のうち、いわゆる痔の手術は 84 例行っています。

術後抗癌剤治療に関しては胃癌、大腸癌治療ガイドライン等を参考にしながら、大学病院または都会の市中病院と同等な治療ができるよう心がけています。

日本外科学会、日本消化器外科学会、日本臨床外科学会等に所属し、活発な学会発表を行いながら、日進月歩の知識・技術の習得に努め、患者様第一と考え、4 人一丸となって地域医療に邁進しています。

整形外科

副 院 長：久保 敬（くぼ たかし）

出身大学：広島大学（昭和 46 年卒）

資 格：日本整形外科学会専門医、医学博士

専門分野：手の外科、整形外科一般

所属学会：日本整形外科学会、日本手の外科学会、中部日本整形災害外科学会評議員 他

医 長：堀田 恵司（ほりた けいじ）

出身大学：広島大学（昭和 56 年卒）

資 格：日本整形外科学会専門医、医学博士

専門分野：膝関節外科、整形外科一般

所属学会：日本整形外科学会、日本膝関節学会、中部日本整形災害外科学会評議員 他

医 長：泉田 泰典（いずた やすのり）

出身大学：島根医科大学（平成 11 年卒）

資 格：日本整形外科学会専門医、医学博士

専門分野：膝関節外科、整形外科一般

所属学会：日本整形外科学会、中部日本整形災害外科学会 他

医 長：坂上 秀樹（さかうえ ひでき）

出身大学：関西医科大学（平成 11 年卒）

資 格：日本整形外科学会専門医

専門分野：整形外科一般

所属学会：日本整形外科学会、中部日本整形災害外科学会 他

医 員：兒玉 祥（こだま あきら）

出身大学：広島大学（平成 15 年卒）

専門分野：整形外科一般

所属学会：日本整形外科学会、中部日本整形災害外科学会 他

整形外科は、現在 5 人の整形外科医で外来診療、病棟診療、手術を行っており、外傷による四肢骨折、変形性関節症や骨粗鬆症といった慢性疾患など運動器疾患を診療しています。八幡浜という地域性もあり、高齢者の大腿骨近位部骨折や脊椎圧迫骨折の症例が多い一方で、乳児の先天性股関節脱臼検診や若年者スポーツ障害の治療にも精力的に取り組んでいます。また、疾患部位としては手の外科・膝関節外科を中心に診療しています。

平成 18 年（1～12 月）の手術件数：287 件

内訳）手の外科・外傷：72 件、膝関節鏡視下手術（靭帯再建、半月板縫合など）：17 件、人工膝関節置換術：2 件、人工骨頭置換術：19 件、大腿骨近位部骨接合術：35 件、四肢骨接合術：67 件、脊椎手術：16 件、その他（腫瘍など）59 件

脳神経外科

現在、医師 1 名での診療体制であり、学会発表・論文の投稿などは極めて困難な状態です。しかし、脳疾患患者様の治療という本来の役割を果たす努力は継続しています。八西地域の脳疾患治療の窓口、或いは中心として行った昨年度の診療実績（手術）を掲載いたします。

<手術症例>

- ・ 急性硬膜下血腫： 2 例（開頭血腫除去術）
- ・ 急性硬膜外血腫： 1 例（開頭血腫除去術）
- ・ 慢性硬膜下血腫： 14 例（血腫穿孔洗浄術）
- ・ 脳 内 出 血： 1 例（開頭血腫除去術）、11 例（定位的血腫吸引術）
- ・ 脳 室 内 出 血： 1 例（脳室ドレナージ）

皮膚科

南予では、公的病院・診療所の数は少なくありませんが、皮膚科の常勤医がいる病院は極めて少数です。その上、皮膚科専門医は都市部に集中する傾向があります。そのため郡部では早期受診、診断確定の機会を失い、病状が進んで来院される患者様が少なくありません。当科ではこれらを踏まえ、八西地域における唯一つの皮膚科のある総合病院としての役割を果たし、この地域の患者様が専門的な診断や治療が受けられるよう、サポートを行っていきたいと考えています。

【スタッフ】

医師 松田光司

昭和 51 年 鹿児島大学医学部卒業

日本皮膚科学会認定皮膚科専門医

【診療内容】

1) 皮膚科診療について

皮膚科一般を対象とするが、難治性疾患や広範囲、複雑な部位の皮膚癌については、愛大皮膚科、形成外科と連携し対応しています。

2) 形成外来について

毎月第 4 水曜日の午後に、愛大形成外科医による診察と外来手術を行っています。完全予約制ですので、前もって一度皮膚科を受診し、予約を取ってください。また愛大医師の都合により日時が変更になる場合があります。

3) 褥瘡（とこずれ）について

急速に進む高齢化社会の中で、寝たきり状態の問題が最近クローズアップされてきています。八西地域は他の地域に比べて高齢者の割合が多いため、長期臥床に伴って褥瘡の発生する患者様の増加が当然予想される状況です。当院では、これに対応するため、平成 14 年春に褥瘡対策委員会を設置しました。医師、看護師、栄養士を中心としたスタッフが連携を取りながら、エアマットやクッションの選定、スキンケア、栄養管理、治療方針の決定など定期的に協議を行っています。各病棟に配属された、褥瘡のエキスペートナースが中心となり、入院時すでに褥瘡が出来ている患者様だけでなく、褥瘡が出来る可能性がある患者様に対しても、予防的対応を行っています。皮膚科もこのチーム医療の一員として、患者様のアメニティの向上のお役に立ちたいと考えています。

泌尿器科

【スタッフ】

武田 肇 (たけだ はじめ)	科長	前 愛媛大学医学部附属病院 講師 日本泌尿器科学会 専門医・指導医 日本透析医学会 専門医・指導医 日本泌尿器科学会 西日本評議員	医学博士
高橋 真司 (たかはし しんじ)	医長	前 愛媛労災病院泌尿器科 医師 日本泌尿器科学会 専門医	

施設認定: 日本泌尿器科学会基幹教育施設・日本透析医学会教育関連施設

泌尿器科学会と透析医学会のダブルタイトルホルダーは南予では当院だけ。

(市立大洲病院は透析医学会のみ、市立宇和島病院は泌尿器科学会のみ。)

【学術活動】

発表

- ・腎自然破裂を起し腎動脈塞栓術が有用であった血液透析患者の1例
高橋 真司 ほか (第26回南予透析研究会 2006.05.25 宇和島市)
- ・腎自然破裂を起し腎動脈塞栓術が有用であった血液透析患者の1例
高橋 真司 ほか (第17回愛媛人工透析研究会 2006.08.26 松山市)

論文

原著

- ・抗精神病薬使用患者に発症した横紋筋融解症 (悪性症候群を含む) による急性腎不全の検討
高橋真司 三浦徳宣 中野吉朗 武田肇
(日本透析医学会雑誌 : in press)

講演

- ・排尿障害の診断法と治療法
和田 崇 (三崎地区勉強会)
- ・前立腺癌・膀胱癌治療の実際
武田 肇 (愛媛県病院薬剤師会 2006.10.21 宇和島市)

【平成 18 年手術統計】

1. 腎臓・尿管	
根治的腎摘出術（腎癌）	3
（うち腹腔鏡下手術 1例）	
根治的腎尿管全摘術（腎盂・尿管癌）	3
腎盂形成術（腎盂尿管移行部狭窄症）	1
経皮的腎生検	3
その他	3
2. 膀胱	
経尿道的膀胱腫瘍切除術（膀胱癌）	21
膀胱全摘出・回腸導管造設術（膀胱癌）	1
尿膜管腫瘍摘出・膀胱部分切除術（尿膜管腫瘍）	1
経尿道的膀胱碎石術（膀胱結石）	5
その他	5
3. 前立腺・尿道	
根治的前立腺全摘術（前立腺癌）	4
経尿道的前立腺切除術（前立腺肥大症）	16
経直腸的前立腺生検	42
尿道摘出術（尿道腫瘍）	2
経尿道的尿道形成術（尿道狭窄）	4
膀胱脱・尿失禁根治術（膀胱脱・尿失禁）	4
その他	6
4. 精巣・陰茎	
高位精巣摘除術（精巣腫瘍）	1
精巣固定術（精索軸捻転・停留精巣）	2
精巣・精巣上体摘除術（精巣上体炎ほか）	3
精巣生検	1
包茎手術	3
その他	3
5. 透析関連	
内シャント造設術（人工血管を含む）	28
CAPD カテーテル留置術など	8
シャント PTA	35
6. 体外衝撃波結石破碎術（腎・尿管結石）	103

透析関連

血液透析患者 51人 腹膜透析患者 12人 （平成 19 年 3 月 1 日現在）

産婦人科

産科医の減少が問題となっている今、医療現場ではより安心できる周産期管理体制確立のため産科医の集約化が進み、周辺地域においては産科のない総合病院が増えてきています。さらに助産師不足の問題も加わって、妊婦を取り巻く環境の悪化は深刻なものになってきています。その中、当院では産科医2名が常勤し、また助産師も8名が勤務しており、八幡浜市に住む方のみならず、周辺地域に住まわれる方、里帰り分娩を希望されている方々に安心して出産をしていただけるように周産期管理体制を整えています。また総合病院であることを活かし、小児科をはじめ他科の医師とも連携して総合的に周産期管理を行っています。

婦人科領域では卵巣腫瘍、子宮筋腫、子宮内膜症、子宮脱をはじめ、主に婦人科良性腫瘍に対する手術療法ならびに内科的治療を行っています。悪性腫瘍に関しては早期発見を心掛け、がんセンターや大学病院などと連携をとり、早期に適切な治療が受けられるよう診療を行っています。また手術後や化学療法後に住み慣れた地域での生活が行えるよう、治療後の管理や化学療法の追加投与などは積極的に当院でも行っており、患者様の予後や生活の質の向上をはかっています。

他にも不妊外来や更年期に対する相談も行っており、地域の皆様により安心した生活を提供できるように努めています。不妊外来に関しては施設レベルの都合もあり、人工授精までの治療しか行えません。それ以上の治療（体外受精）が必要な場合、あるいはそれを希望される患者様に対しては、高度不妊治療が行える専門の施設を紹介しています。

（文責：山内正大）

【スタッフ紹介】

科長 山中 研二

愛媛大学医学部医学科 昭和62年卒業

母体保護法指定医

日本産科婦人科学会専門医

医長 山内 正大

愛媛大学医学部医学科 平成10年卒業

日本産科婦人科学会専門医

日本周産期・新生児医学会

日本産科婦人科内視鏡学会

【平成18年度症例数統計】

産科 総分娩数：114 双胎：2 帝王切開：29

婦人科手術症例 卵巣腫瘍：12 子宮筋腫：4 子宮脱：7 CIN：3 頸管縫縮術：1

流産手術：6

眼科

当科は眼科一般疾患を対象として医師2名で診察に当たっています。EBM (evidence based medicine) に基づく適正な医療を行うことを心がけています。

【内容】

外来は月～金曜日の午前中に行っており、午後は月・水・金曜日は手術日、火・木曜日は予約検査、レーザー治療などを行っています。検査では蛍光眼底造影、眼底写真撮影、超音波検査、角膜形状解析、角膜内皮細胞検査、視野検査などに対応しています。レーザー治療についてはマルチカラーレーザー、YAG レーザー、SLT レーザーを備えており、糖尿病網膜症・網膜静脈閉塞症などの網膜疾患、緑内障、後発白内障などに対応しています。

【手術実績】

平成18年の手術件数は約370例で、内訳は白内障約340例、その他約30例でした。発生頻度の高い白内障の手術が中心ですが、翼状片、結膜弛緩症、眼瞼内反症などの外眼部の手術にも対応しています。白内障に関してはクリニカルパスを導入し、片眼3泊4日、両眼5泊6日の短期入院下で施行しています。日帰り手術に関しては、外来設備ならびに人員配置の面から行っておりませんが、当院での小切開・フォーダブル眼内レンズ挿入超音波白内障手術は、日帰り手術で行われている手術と同じ術式です。

過去の手術実績は、平成4年55件、5年177件、6年264件、7年210件、8年163件、9年136件、10年162件、11年316件、12年369件、13年399件、14年325件、15年316件、16年318件、17年294件、そして18年が373件となっています。

【論文】

「非典型的な経過を辿った側頭動脈炎による虚血性視神経症の1例」

西脇幹雄・前田智治・松田久美子

眼科臨床医報 第101巻 第2号

耳鼻咽喉科

(診療科の特徴)

当科では手術治療が必要な方を含め、耳鼻咽喉科頭頸部領域を広く診療しています。中耳・鼻咽喉の難治性感染症、突発性難聴やメニエール病等の内耳疾患、顔面神経麻痺などを専門にしています。手術の主なものは、中耳、鼻副鼻腔、咽喉頭、頭頸部の炎症疾患および良性腫瘍、外傷等です。症例によっては日帰り手術やショートステイ手術も行っています。

また、補聴器専門外来を設けています。

(担当医師)

佐々木 康

日本耳鼻咽喉科学会認定耳鼻咽喉科専門医
日本耳鼻咽喉科学会認定補聴器相談医

(平成 18 年の主な手術)

鼓膜形成術（日帰り手術）	1 件
鼓室形成術	3 件
その他耳科手術	1 件

内視鏡下鼻内副鼻腔手術	12 件
鼻中隔矯正術	2 件
その他鼻科手術	9 件

眼窩底骨折手術	2 件
扁桃摘出術	4 件
唾液腺手術	1 件
喉頭微細手術	3 件
その他頭頸部手術	5 件

放射線科

当院で行う全てのCT、MRI、核医学検査の画像診断、心臓を除く全ての領域の血管造影診断を日常業務としています。さらに、低侵襲（患者様に優しい）といわれている血管内手術（肝臓癌の塞栓術、脳梗塞の血栓溶解術、外傷性出血の止血術、透析シャントトラブルに対する血管形成術など）を受け持っています。

ヘリカルCT、高磁場MRI、核医学装置、血管造影装置を備え、常に新しい検査方法も導入しています。また、全身用骨塩定量装置や乳房撮影装置を備え、骨粗しょう症や乳がんの早期発見に力を入れています。CR装置を用いて、X線検査の大部分はデジタル化しています。

平成17年10月に高磁場MRIが最新機種に更新され、同時にCT、MRIはモニター診断もできるようになりました。

また、平成18年7月には血管造影装置が更新され、循環器専用と循環器以外の領域用の2台が当院に導入されています。

【スタッフ】医師2名、診療放射線技師6名、看護師4名、事務2名。

（医師紹介）

山本 尚幸 副院長

愛媛大学医学部医学科 昭和61年卒業。医学博士。

専門分野：放射線診断一般、核医学診断、IVR(血管内手術)

取得専門医：日本放射線学会専門医

清水 輝彦 放射線科医長

愛媛大学医学部医学科 平成5年卒業。医学博士。

専門分野：放射線診断一般、IVR(血管内手術)

取得専門医：日本放射線学会専門医

検診マンモグラフィー読影認定医

【研修会等】

平成18年10月25日 緊急被ばく医療訓練

平成18年12月20日 院内CT勉強会

平成19年3月7日 院内CT勉強会

平成19年2月19日 院内MRI勉強会

平成19年3月5日 院内MRI勉強会

（業績）

講演

平成18年度

1月 松江 島根県「緊急被ばく医療基礎講座Ⅰ」

汚染を伴った外傷患者の取り扱い 山本尚幸

2月 福井 緊急被ばく医療「福井フォーラム」

放射線の基礎知識－放射線の性質、単位、人体への影響－ 山本尚幸

6月	青森	緊急被ばく医療「青森フォーラム」	
		緊急被ばく医療の実際	山本尚幸
7月	松江	緊急被ばく医療「島根フォーラム」	
		机上演習：想定事故の緊急被ばく医療	山本尚幸
9月	松山	緊急被ばく医療「愛媛フォーラム」	
		机上演習：想定事故の緊急被ばく医療	山本尚幸
10月	羽咋	石川県「緊急被ばく医療基礎講座Ⅰ」	
		汚染を伴った外傷患者の取り扱い	山本尚幸
11月	友部	茨城県「緊急被ばく医療基礎講座Ⅰ」	
		汚染を伴った外傷患者の取り扱い	山本尚幸
12月	伊方	第29回岬地区勉強会	
		最近のMRIについて	清水輝彦

検査件数

	平成17年度	平成18年度
一般撮影	27332	26212
マンモグラフィー	475	426
上・下部消化管造影	776	333
CT	7888	7827
MRI	3176	3537
RI	487	502
血管造影(心カテ含む)	326	354
骨密度検査	448	557

リハビリテーション科

平成 18 年度診療報酬改定に伴い、リハビリテーションの体系が大きく変化してきました。当科と致しましても、急性期の症例(疾患)を中心に地域と連携を図り、最適で良質なリハビリテーションサービスを提供できるよう、努力しています。

【施設基準】

脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅱ）

運動器リハビリテーション料（Ⅰ）

呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）

【スタッフ】

医師 1 名、理学療法士 6 名、作業療法士 1 名、言語聴覚士 1 名、助手 5 名

【統計】

項目	件数
脳血管疾患リハビリ	19,731
運動器リハビリ	17,423
呼吸器リハビリ	1,056
摂食機能療法	1,159
物理療法のみ	11,961
筋電図検査	38
退院前訪問指導	1
退院時リハビリ指導	746

【研修会等】

カンファレンス		4/週
研修会	院内	23
	院外	32
リハビリ科内勉強会		8
リハビリ科内症例検討会		6
講師依頼	院内	6
	院外	22

【実習・見学受入等】

大学・専門学校	8
看護専攻科	8
職場体験	2

歯科口腔外科

歯科口腔外科外来では、口腔外科を主体とする歯科診療を提供しています。埋伏歯の抜歯、口腔内の腫瘍・嚢胞の摘出手術や白板症などの粘膜疾患、癌や骨髄炎、外傷など、広く顎口腔領域に見られる疾患についての診断と治療を行っています。また、舌痛症、口腔乾燥症、顎関節症などの口腔内科的疾患にも対応しています。さらに、心臓病や糖尿病、透析を受けられている方など、全身的な病気をお持ちの方や、体が不自由で一般歯科医院への通院が困難な方への一般歯科治療も行っています。

【スタッフ】 現在、以下の三人で週3回（月、水、金）診療に当たっています。

浜川 裕之 （金曜日午前 担当）

昭和52年 大阪大学歯学部卒業

日本口腔外科学会専門医・指導医

所属学会

日本口腔外科学会（評議員）、日本口腔科学会（理事・評議員）、日本口腔腫瘍学会（評議員）、日本口腔インプラント学会、日本癌学会、日本癌治療学会、日本頭頸部癌学会、日本口腔粘膜学会（評議員）、日本口腔組織培養学会（理事）、日本唾液腺学会、日本分子生物学会、American Association for Cancer Research、International Association of Oral and Maxillofacial Surgery、International Congress on Oral Cancer

住田 知樹 （月曜日 担当）

平成6年 大阪大学歯学部卒業

日本口腔外科学会専門医

所属学会

日本口腔外科学会、日本口腔科学会、日本癌学会、日本癌治療学会、日本頭頸部癌学会、日本分子生物学会、日本病理学会、日本口腔腫瘍学会、日本唾液腺学会、日本口腔組織培養学会、日本口腔診断学会、日本口腔インプラント学会、日本有病者歯科医料学会、American Association for Cancer Research、Asian Association of Oral and Maxillofacial Surgery

大西 詔子 （水曜日 担当）

平成9年 徳島大学歯学部卒業

所属学会

日本口腔外科学会、日本癌学会、日本癌治療学会、日本頭頸部癌学会、日本口腔組織培養学会

【臨床成果】

昨年度の外来患者症例の一部を以下に示します。(平成18年4月～平成19年2月末現在)

埋伏智歯	71例
正中過剰埋伏歯	4例
粘液嚢胞	3例
口腔良性腫瘍	3例
顎下腺唾石症	2例
顎骨骨折・口腔顔面外傷	9例
歯科インプラント周囲炎	2例
歯科インプラント治療	5例

全身麻酔下での手術が必要と診断した場合には、愛大附属病院へ転院して頂き、病院間の連携をもって治療に望んでいます。昨年度は、口腔悪性腫瘍4例、顎骨骨髓炎2例、上顎嚢胞1例が愛大附属病院で加療し、その後当院外来で経過観察中です。

臨床病理科

臨床病理科では採血、血液検査、生化学免疫検査、細菌検査、輸血検査、病理・細胞検査、生理検査等を 17 名のスタッフで行っています。病気の診断や治療に役立つよう、「正確で早く」をモットーに医師や看護師へ情報を提供しています。

当臨床病理科の特徴は他病院にさきがけ早朝検査を始めたことです。6:30、7:00、8:30 という 3 段階の時間差出勤で、病棟の検体検査については 8:30 までに検査が終了しているという画期的なシステムをとっています。そのために、検査に要する自動分析機も大型の物でなく、中型で小回りの利く経済的な物で対応出来るようになりました。また 8:30 から診察される外来患者様の検査も、よりスムーズに進めることが出来ます。遠方よりお越しの方々には、検査結果の説明を受けに何度も足を運ぶことのないよう、特殊な検査以外は当日での対応を心がけています。最近「臨床支援」ということがよく言われています。しかし、もともと臨床検査は診断や治療のためのものでありますから、そのためにはあらゆるサービスを提供するのは当たり前のことであると思います。病院の質が問われる現在、スタッフのレベルアップや新しい試みに常に前向きに取り組んでいけるアクティブな検査室を目指していきたいと思っています。

【平成 18 年度統計】

分類	件数
一般検査	163,987
血液検査	180,690
生化学検査	518,482
血清検査	5,617
病理検査	1,043
細胞検査	2,196
細菌検査	8,706
生理検査	19,483
合計	900,204

【スタッフ】

臨床検査技師 17 名 準看護師 1 名

【認定免許】

細胞検査士 1 名
循環器超音波技師 1 名
消化器内視鏡技師 1 名

【活動内容】

講演

山村 展央 八幡浜大洲糖尿病内分泌研究会「頸動脈エコーの実際」

発表

山村 展央 愛媛県超音波研究会「虚血性心疾患の合併症」「大動脈弓離断症の一例」

愛媛県超音波研究会「仮性動脈瘤の一例」

日本超音波検査学会四国地方会演題「キアリ網がフィルター機能を果たしたと考えられた急性肺動脈血栓塞栓症の一例」

愛媛県超音波研究会「心膜液貯留の症例」

山本 忍 日本超音波検査学会四国地方会「たこつぼ型心筋症亜型の一例」

主催

此上 武典 愛媛県臨床検査技師会夏期研修会「輸血の一元管理」他

愛媛県臨床検査技師会中予、南予合同研修会「the メタボリックシンドローム」
「病院組織におけるコメディカルの役割」他

薬局

薬局は、現在7名の薬剤師、1名の技術職員および2名の事務員からなっています。

薬剤師の任務は、調剤をはじめ医薬品の供給、その他薬事衛生を司ることによって公衆衛生の向上および増進に寄与し、国民の健康な生活の確保に努めることにあります。

薬局の主な業務は、調剤、製剤、薬品補給、薬品管理、医薬品情報管理、薬剤管理指導です。それぞれの業務を簡単に説明すると、

(調剤) 狭義には処方箋により医薬品を調整して、交付します。

(製剤) 市販されていないが、臨床の場で必要な医薬品を製造します。

(薬品補給) 病院内で主に注射剤を交付・供給します。

(薬品管理) 薬品の在庫管理、品質管理、麻薬等の法規制がある薬品の管理をします。

(医薬品情報管理) 医薬品情報の収集・整理・伝達を行い、また病院内・外からの薬についての問い合わせに答えます。

(薬剤管理指導) 入院患者様へ薬の説明や相談、患者様の薬の履歴を調べて飲み合わせや重複のチェックを行います。

以前の薬剤師業務の大半は外来患者様への薬の調剤でした。最近では院外処方箋発行により、薬剤師の業務は入院患者様を主体とした業務に変わってきています。薬剤師がベッドサイドで医療スタッフと共に患者様の薬学的ケアを行うことに力を入れています。処方箋のチェック、薬による副作用や薬同士やサプリメントなどとの相互作用のチェック、服薬のし易さを患者様に合わせて工夫することなど、薬剤師ならではの薬学的ケアが、医師によるケア、看護師によるケアとともに重要な業務となってきたと考えています。

平成18年度の薬局業務の集計(総数)

処方箋枚数	外来処方箋	2,400枚
	入院処方箋	33,812枚
注射伝票枚数		101,188枚
薬剤管理指導件数		2,086件

発表

1) 宮本 和典

「33G インスリン用注射針の使用感についての比較検討」

日本糖尿病学会中国四国地方会

2) 宮本 和典

症例 I 「インスリン指導例」

第6回八幡浜・大洲糖尿病チーム医療研修会(八幡浜)

3) 宮本 和典

「地域における糖尿病療養指導士の現状」

日本糖尿病学会中国四国地方会

栄養療法科

【スタッフ】

管理栄養士 4名 事務員 2名 調理師 4名 調理員 15名
(計 25名)

【栄養療法科基本理念】

近年、日本人の平均寿命は著しく伸び、世界が目を見張るような長寿社会を達成しました。それは医学の進歩とライフスタイルの変化によるものです。それに伴って、生活習慣病と呼ばれる疾患が、次第に増加してきました。

病院給食は患者様の病状に応じて適切な食事を提供し、疾病の治癒促進を図るという重要な役割を担っており、日々患者様の健康回復に貢献できるよう努めています。

【栄養管理】

病院給食は、単に食事としての存在にとどまらず、治療の一環として重要な役割を担っています。「おいしく食べていただく事」と同時に、食べる事で身体の内面から健康になるようサポートします。栄養療法科では医師の指示のもと、それぞれの病態に応じて献立を作成し、調理する為に、専門の栄養士や経験を積んだ調理員達が日々努力を続けています。

【衛生管理】

病院における治療食の調理は、個人の栄養状態に適切に対応すること、おいしい料理を作る事と同時に、食品衛生上安全である事が不可欠です。特に、大量調理であるうえ、病原体に対して抵抗力の弱い方々が対象であることから、調理の際にはより一層厳重な衛生管理が求められます。栄養療法科においても、衛生管理マニュアルに則って、日々の業務においては清潔、迅速を心がけ、衛生管理の保持に努めています。

【栄養指導】

様々な病態をもつ患者様において、日常の食生活を適切なものに改善することの必要性が、ますます重要となってきました。これを日常生活の中で習慣化し、実践するための知識や方法を習得する事で、治療効果はより一層高まります。栄養指導においては、医師の指示のもと、それぞれの病態や理解度に応じて分かりやすくアドバイスしていきます。

入院患者様においては、入院中の栄養管理と同時に、退院後の家庭での食生活の管理についても習得していただく事が大切になります。また、外来の患者様では、食事内容の調査と検査値から、普段の食事の改善方法を確認し、指導していきます。家庭では、調理担当者が患者様以外の家族である事も多いので、一緒に栄養指導を行っています。

栄養学の進歩により、食品が身体に及ぼす様々な作用も明らかになってきました。それと同時に、情報の多様化により、誤った食生活に陥ってしまう事も多々あります。そういった知識を正しい方向へ導き、栄養食事療法の基本をきちんと理解する事で、治療効果はより一層得られるのです。

【栄養指導内容】

- ・糖尿病教育入院
 - ・入院時栄養指導（個人・集団） 【月～金：8:30～17:00】
 - ・退院時栄養指導（個人・集団） 【月～金：8:30～17:00】
 - ・外来個人栄養指導 【月～金：8:30～17:00】
 - ・外来糖尿病教室（たまご・ひよこ・にわとり） 【各コース月1回：日程は下記参照】
- ※ひよこ・にわとりコースに関しては2ヶ月に1回

たまごコース日程表（初期教育）

日	時間	担当	時間	担当
1回目	14:00～	日常生活 看護師	14:40～	栄養療法 栄養士
2回目	14:00～	栄養療法 栄養士	14:40～	運動について 看護師
3回目	14:00～	栄養療法 栄養士	14:40～	薬について 看護師
4回目	11:30～	試食会 栄養士	12:30～	まとめ 医師

ひよこコース日程表（マンネリ化してきた方）

日	時間	担当	時間	担当
1回目	13:30～	コントロールの為の指標 看護師	14:40～	食事療法① 栄養士
2回目	13:30～	食事療法② 栄養士	14:40～	治療薬と注意点 薬剤師
3回目	13:30～	食事療法③ 栄養士	14:40～	運動のポイント 理学療法士
4回目	11:30～	試食会 栄養士	12:30～	まとめ 医師

にわとりコース日程表（ベテランの方）

日	時間	担当	時間	担当
1回目	13:30～	食事指導① 栄養士	14:40～	合併症と日常生活 看護師
2回目	13:30～	動脈硬化について 検査技師	14:40～	食事指導② 栄養士
3回目	13:30～	治療 薬剤師	14:40～	栄養指導③ 栄養士
4回目	13:30～	まとめ 医師	14:00～	間食 栄養士

※各コースとも、少人数で完全予約制

平成18年度「年間外来栄養指導件数」	個人 665件	集団 48件
平成18年度「年間病棟栄養指導件数」	個人 309件	集団 23件

【18年度活動内容（その他）】

- 院内 -

・栄養管理（ベッドサイド訪問）

・褥瘡回診

【第1・第3水曜日】

※ 褥瘡委員会 2ヶ月に1回あり

・褥瘡勉強会

・糖尿病カンファレンス

【毎週水曜日】

・八幡浜・大洲糖尿病チーム医療研修会

【4ヶ月に1回開催】

※症例発表・司会等担当

・ICTカンファレンス

【月1回 14:30～】

※ 各部所ラウンド月1回あり

・給食検討会

【3ヶ月に1回開催】

・給食委員会

【年に1回開催】

・NST勉強会

【月1回】

・院内感染対策勉強会

・安全管理委員会

【月1回】

・退院時栄養指導の開始

・実習生受け入れ

・食中毒時対応マニュアル作成

・災害時マニュアル作成

・食材料の削減

・嚥下訓練食の開始

・検査後食の開始

・食事に関するアンケート調査

・みどり会

※ 教室開催

・糖尿病週間行事

※ 商店街にて栄養指導実施

- 院外 -

・平成18年度愛媛県栄養士 八幡浜支部総会及び研修会

・平成18年度愛媛県栄養指導者研修大会

・栄養士会総会

・指導者のための健康栄養セミナー

・保健指導者研修会

・日本糖尿病学会 第44回中国四国地方会

※ 症例発表

・小児サマーキャンプ

※ スタッフとして参加

看護科

1. 看護科理念・看護目標

「医療チームの和を大切に」

看護方針

「温もりのある看護の提供をする」

- ① 地域保健医療チームの一員として、よりよい看護を提供します
- ② 自分自身を高め、他の人を尊重するための自己啓発に努めます
- ③ 良い人間関係を常に保つように努力します
- ④ 看護学生の教育効果をあげ、臨床看護のレベルを一層高める努力をします

2. 行事及び専門教室等の開催

療養生活のサポート、患者様とのふれあいを目的に、以下のような取り組みを実施しています。「ホットの会」、「ストーマ患者さまの集まり」は毎回好評を得ています。

①ふれあい看護体験	5月11日	参加者 3名
②第4回八幡浜ホットの会	5月21日	参加者 51名
③第6回ストーマ患者さまの集まり	10月28日	参加者 23名
④糖尿病週間行事	11月 8日	参加者 80名
⑤第5回集団災害時デモンストレーション	9月14日	参加者 29名
	10月12日	参加者 22名
⑥母親学級	毎月第1水曜日	参加者 56名
⑦ベビービクス	第4火曜日	参加者 115名
⑧糖尿病教室	毎月1回	参加者 25名
⑨ストーマ外来	第3水曜日	参加者 56名

3. 実習等の受け入れ・講師派遣

看護科では、看護関連の実習を引き受けることは当院の使命であるとともに臨床看護レベルの向上にも役立つと考えています。また、地域とのつながりも大切にしたいとの思いで、中学生の体験学習、性教育講座の講師も引き受けています。これらを通じて私達看護師の育成にも効果を上げています。

看護学校臨地実習

帝京第五高等学校			
学 年	期 間	実習内容	人 数
看護科本科2年	4週間	基礎実習	24名
看護科本科3年	4週間	成人・老年実習	12名
専攻科	14週間	母性・小児実習	52名

徳島県立看護学院看護学科（通信制）			
学 年	期 間	実習内容	人 数
第 2 期生	3 日	基礎看護	8 名
第 2 期生	3 日	成人・老年	12 名

中学校体験学習

学校名	期 間	人 数
愛宕中学校	5 日	5 名
八代中学校	5 日	3 名
松柏中学校	1 日	2 名

訪問看護研修

期間 1 日 人数 2 名

その他見学実習

学校名	期 間	人 数
大阪医療秘書福祉専門学校	1 日	1 名
瀬戸内短期大学	1 日	1 名

講師派遣

性教育講座 助産師 原田恵美
 栄養学級 糖尿病療養指導士 駿河陽子

4. 研修会等での発表

- ① 第 22 回中四国新臨床糖尿病セミナー
「地域における CDE お取り組み」此上保美
- ② 第 5 回八幡浜・大洲糖尿病チーム医療研修会
「各種合併症を有するてこずり糖尿病の一例」駿河陽子
「糖尿病療養指導士の役割分担」パネリスト 谷本千鶴子
- ③ 日本糖尿病学会中四国地方会第 44 総会
「地域における糖尿病療養指導士の現状」谷本千鶴子
- ④ 第 5 回愛媛消化器内視鏡技師研究会
「当院における内視鏡洗浄消毒記録の現状」林久子
- ⑤ 第 7 回八幡浜・大洲糖尿病チーム医療研修会
症例検討パネリスト 駿河陽子

医療情報管理室

スタッフ紹介 医療情報管理室 室長 山本 尚幸 副院長
 地域医療連携室 室長 岩田 猛 副院長
 医療情報管理室 次長 田中 早苗

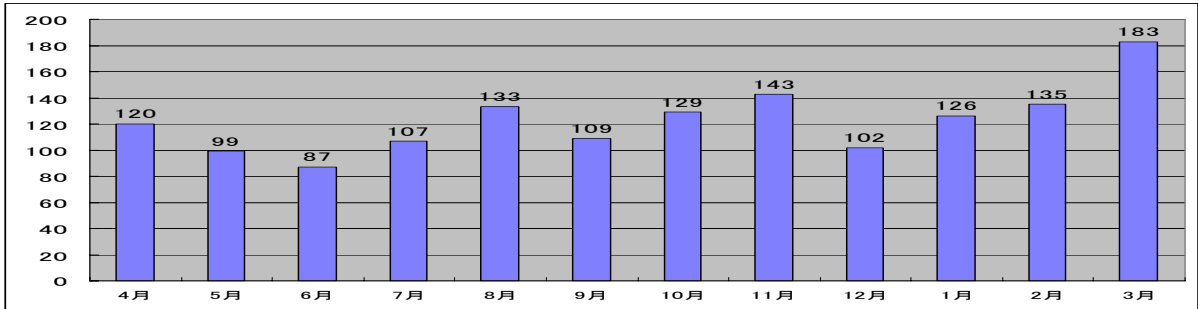
業務概要

1. 地域医療連携室 2. 患者様相談窓口 3. 診療録管理 4. 図書管理

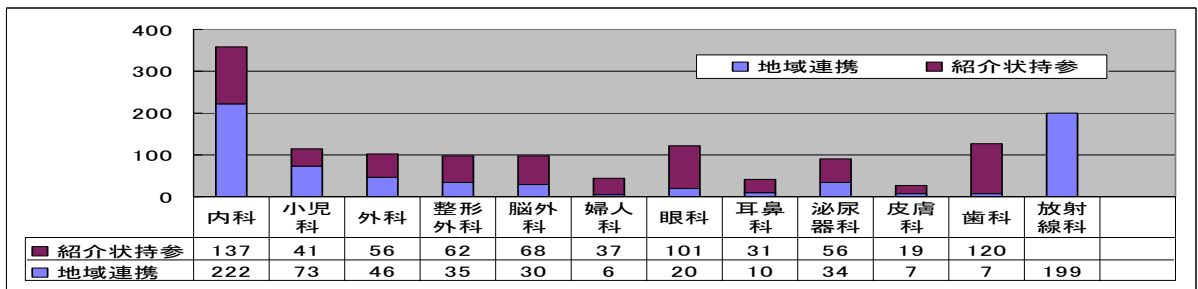
業務実績

1. 地域医療連携室

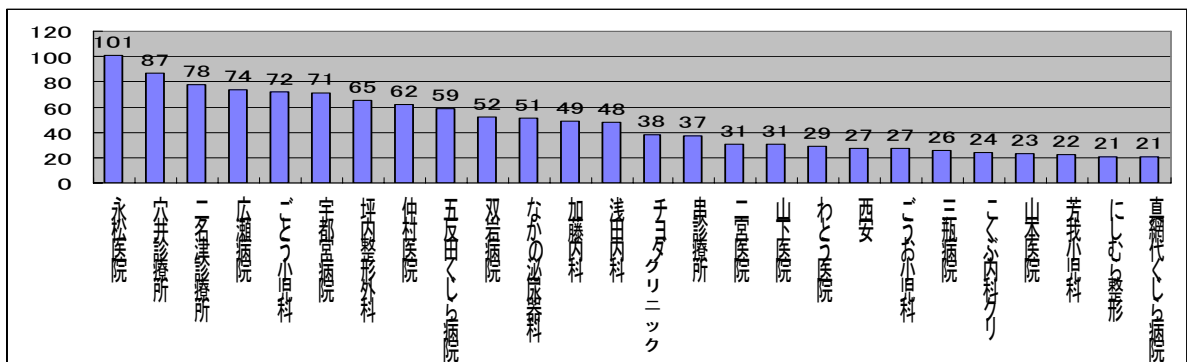
1) 平成 18 年度 FAX 利用紹介患者数 延べ利用者数 1,473 人 平均 123 人/月



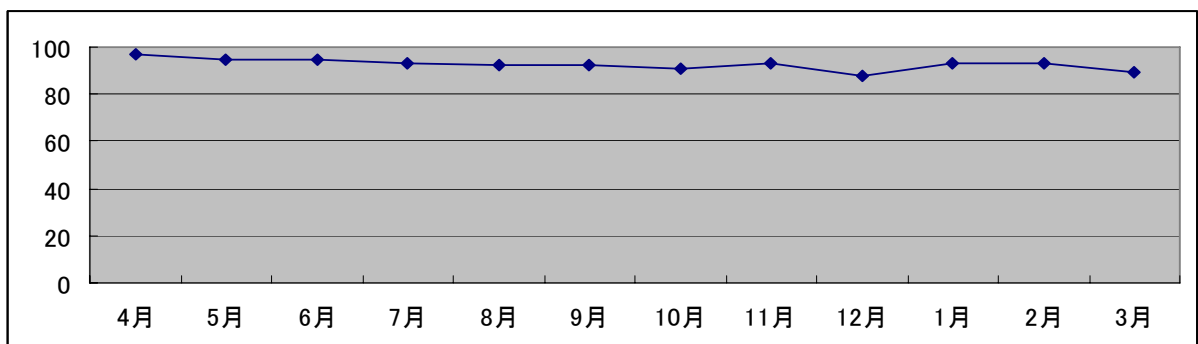
2) 平成 18 年 紹介患者様受け付け方法別 診療科別 (11月～3月)



3) 施設別 FAX 利用患者紹介状況 (20 件以上)

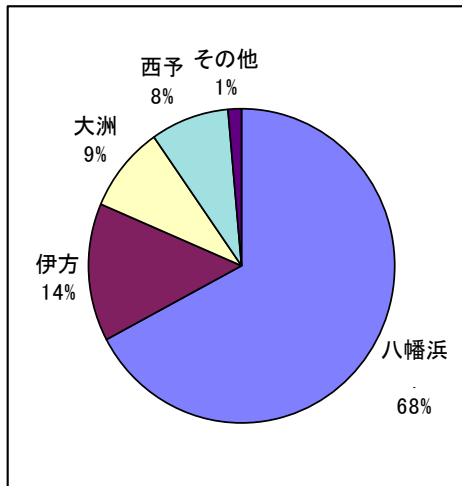


4) 紹介状に対する回答状況

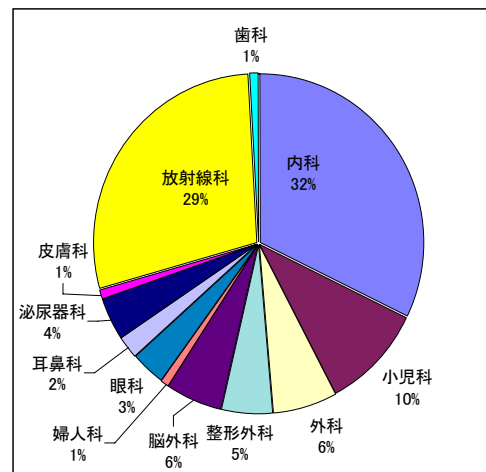


5) 地域別・診療科別 FAX 利用紹介患者数

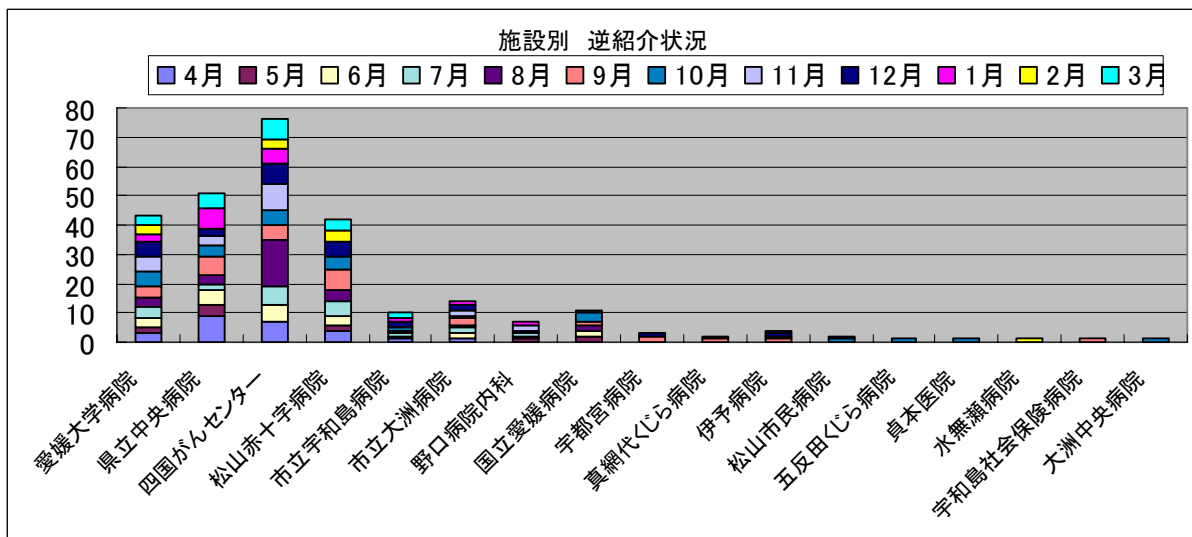
地域別



診療科別

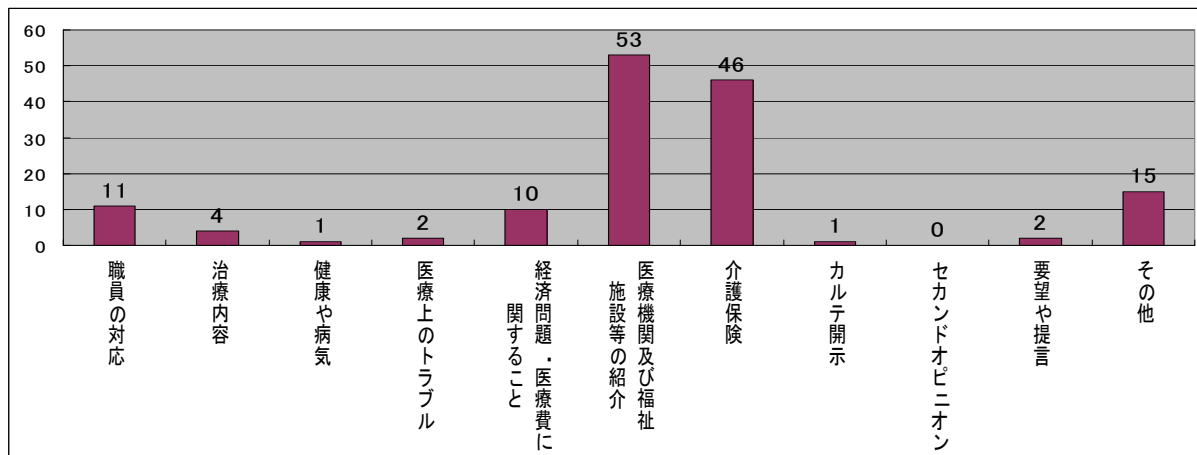


6) 地域連携からの受診予約 施設別



3. 患者様相談窓口件数

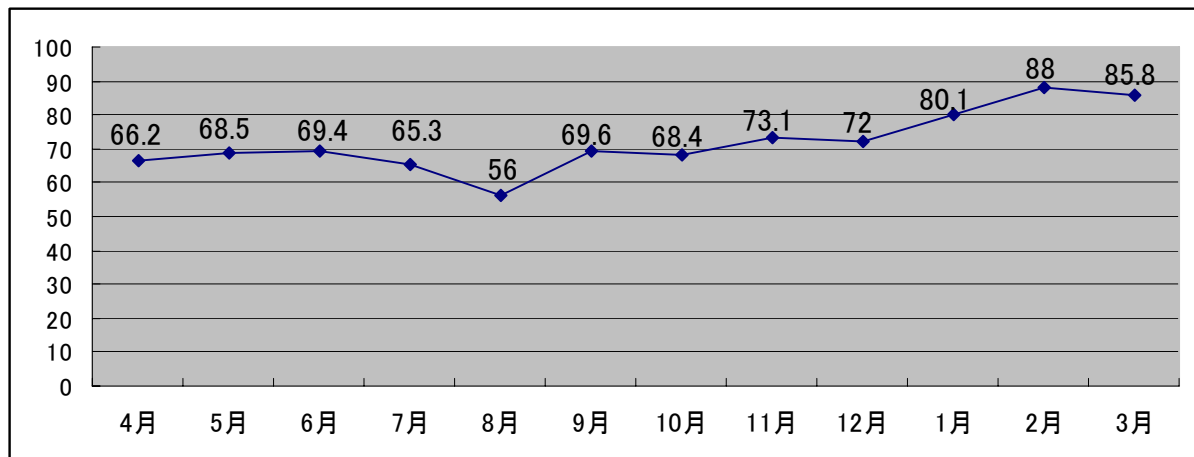
- 1) 総相談件数 125 件
- 2) 二次対応に至った件数 8 件
- 3) 相談内容



3. 診療録管理

診療録管理委員会 1回/2月

サマリー回収率推移



医事係

医事係は主に受付業務・医療費の計算業務・診療報酬請求業務を職員4名、日本医療事務センター職員42名で行っています。平成17年5月より医事会計システム、自動再来機受付システム、外来カルテ管理システム、処方オーダーリングシステムを導入し、患者様の待ち時間短縮等、サービスの向上に努めています。

平成18年度在院患者数

	内科	小児科	外科	整形外科	脳外科	婦人科	産科	眼科	耳鼻科	泌尿器科	皮膚科	麻酔科	合計
4月	4,526	227	967	1,740	693	24	94	127	14	418	93	0	8,923
5月	3,999	193	1,009	1,818	687	67	137	102	71	454	45	4	8,586
6月	3,908	161	944	1,636	683	43	117	118	64	437	42	0	8,153
7月	3,810	225	907	1,502	691	132	151	130	73	411	51	1	8,084
8月	3,668	173	1,109	1,715	625	80	105	118	65	395	31	0	8,084
9月	3,526	173	1,112	1,665	675	138	121	100	40	210	42	0	7,802
10月	3,565	168	942	1,741	833	58	82	118	18	302	49	0	7,876
11月	3,482	164	946	1,709	790	43	78	137	4	326	7	0	7,686
12月	3,731	236	1,014	1,703	850	63	92	61	32	357	14	0	8,153
1月	3,960	200	1,157	1,819	892	17	117	83	30	284	39	0	8,598
2月	3,550	284	1,140	1,682	878	49	87	95	32	323	40	0	8,160
3月	3,879	266	1,134	2,062	969	57	89	109	22	279	48	0	8,914
計	45,604	2,470	12,381	20,792	9,266	771	1,270	1,298	465	4,196	501	5	99,019

平成18年度入院患者数

	内科	小児科	外科	整形外科	脳外科	婦人科	産科	眼科	耳鼻科	泌尿器科	皮膚科	麻酔科	合計
4月	126	55	36	39	17	4	6	22	1	15	7	1	329
5月	151	45	41	36	13	6	13	30	10	24	3	1	373
6月	141	35	44	38	16	5	11	27	5	24	7	0	353
7月	132	42	47	28	23	9	16	33	10	16	6	1	363
8月	173	44	52	40	17	8	11	29	4	24	2	1	405
9月	141	35	45	40	29	13	17	23	3	11	7	0	364
10月	133	33	40	44	20	10	8	28	5	20	4	0	345
11月	145	34	37	38	22	5	11	33	0	17	1	0	343
12月	140	47	44	41	31	8	10	17	3	20	2	0	363
1月	139	39	59	39	12	2	16	23	5	20	5	0	359
2月	108	47	35	36	21	5	12	27	2	14	4	1	312
3月	117	50	49	39	11	11	10	26	3	14	5	0	335
計	1,646	506	529	458	232	86	141	318	51	219	53	5	4,244

平成18年度退院患者数

	内科	小児科	外科	整形外科	脳外科	婦人科	産科	眼科	耳鼻科	泌尿器科	皮膚科	麻酔科	合計
4月	143	52	48	33	15	3	8	24	3	18	5	1	353
5月	147	50	42	38	13	7	13	24	9	22	7	1	373
6月	138	35	51	36	13	2	8	32	5	20	5	0	345
7月	152	43	50	32	27	10	16	34	5	26	4	1	400
8月	156	41	53	38	18	9	12	28	4	21	5	1	386
9月	137	35	51	36	20	12	13	28	5	21	3	0	361
10月	141	34	52	45	20	13	10	22	4	11	9	0	361
11月	127	29	35	37	25	3	12	30	1	22	1	0	322
12月	148	53	52	51	24	10	13	24	2	22	2	0	401
1月	114	34	47	26	16	2	11	18	4	15	4	0	291
2月	114	47	44	34	13	5	13	27	3	20	4	1	325
3月	113	53	55	37	15	9	12	30	2	15	4	0	345
計	1,630	506	580	443	219	85	141	321	47	233	53	5	4,263

平成18年度外来患者数

	内科	小児科	外科	整形外科	脳外科	産婦人科	眼科	耳鼻科	泌尿器科	皮膚科	歯科	ドック等	合計
4月	3,655	1,061	620	2,994	994	356	1,315	733	943	857	160	293	13,981
5月	3,698	1,203	610	2,932	923	397	1,340	760	1,032	930	178	292	14,295
6月	3,858	1,067	664	3,215	912	446	1,593	709	1,039	1,082	215	445	15,245
7月	3,554	974	663	2,945	938	409	1,511	672	1,129	1,166	204	244	14,409
8月	3,854	1,003	753	3,266	862	471	1,532	725	1,130	1,174	214	249	15,233
9月	3,638	907	660	3,076	859	458	1,441	587	1,034	949	207	204	14,020
10月	3,837	889	599	3,156	930	417	1,399	710	1,086	917	221	534	14,695
11月	3,722	1,076	600	2,800	720	388	1,301	572	1,116	812	180	785	14,072
12月	3,521	1,427	596	2,669	651	424	1,237	583	1,048	779	208	272	13,415
1月	3,148	953	570	2,531	703	426	1,141	561	1,054	764	148	256	12,255
2月	2,983	884	578	2,451	652	371	1,141	689	1,002	704	180	227	11,862
3月	3,363	1,101	615	2,617	700	395	1,298	768	1,119	845	150	57	13,028
計	42,831	12,545	7,528	34,652	9,844	4,958	16,249	8,069	12,732	10,979	2,265	3,858	166,510

市立八幡浜総合病院の行事等

イベント

開催日	内容	出演者	参加者
平成18年12月19日	クリスマスキャロル	幼稚園児25、父兄25、職員4	40
平成18年12月21日	クリスマスコンサート	教会ゴスペル会員13	40

訓練等

開催日	内容	参加者
平成18年05月18日	消防訓練	50
平成18年10月25日	原子力防災訓練	10
平成18年11月02日	消防訓練(避難訓練)	50
平成19年03月10日	災害医療訓練	79